

第246回福島県災害対策本部員会議（概要）

災害対策本部総括班まとめ

- 1 日 時：平成24年1月23日（月）10：47～11：10
- 2 場 所：災害対策本部・自治会館303会議室
- 3 内 容：

（1）環境放射能測定結果（暫定値）の状況について

事務局：別紙資料により説明

平成24年1月23日午前8時現在、最小値が西会津町野沢小学校の $0.05 \mu\text{Sv/h}$ 、最大値は飯舘村長泥コミュニティセンターの $4.33 \mu\text{Sv/h}$ となっている。概ね横ばいまたは減少傾向を示している。

松本副知事

雪や積雪の影響について、教えて欲しい。

事務局：

気温について、測定器に温度補正機能が付いていない物があり、その影響が出ている可能性がある。また、高線量の地域について、降雪や着雪の影響で線量が低下しているデータが見られる。

（2）ワンストップ相談窓口 週報について

オフサイトセンター事務局：別紙資料により説明

先週の実績は446件。

主な問い合わせ内容としては、野菜や花の作付けをしてもよいのか、どのような規制があるのかなど。次に、汚染砕石について、基準値を早急に決めて欲しい、流通の経路、個人での測定、賠償についてなどの問い合わせがあり、92件がこの関係である。

また、薪ストーブを使用しても問題ないかといった問い合わせがある。

松本副知事

薪ストーブの件について、どのように答えているのか教えて欲しい。

オフサイトセンター事務局：

環境省から指導文書が出ており、灰については一般ゴミとして処理するという方針が示されており、そのような内容で答えている。

(3) 「農林水産業に関する相談窓口」の利用状況について

農林水産部長：別紙資料により説明

先週の相談件数は29件。内訳としては、米のモニタリング、作付け制限の関係が10件、キノコ・野菜・果樹等のモニタリング関係が7件、損害賠償関係の問い合わせが3件などとなっている。

内容としては、米については、稲の作付け制限の考え方が示される時期、それに合わせて野菜等にも作付け制限はあるのかという問い合わせがあり、野菜等については国からも作付け制限する考えは出されていないと答えている。

また、ストーブ用薪の基準値はいくらかという問い合わせがあり、販売されている物については、1kg当たり40ベクレル以下という基準があると答えている。

(4) 「原子力損害の賠償等に関する問い合わせ窓口」利用状況について

原子力損害対策担当理事：別紙資料により説明

先週の相談件数は311件で、増加傾向である。一番多いのは、自主的避難等の対象となった区域での賠償手続き開始時期、内容についての問い合わせである。

また、実費の賠償の仕方、請求して査定された場合どうするかとの問い合わせがあるが、これについては紛争解決センター等を紹介している。

(5) 経営・金融・労働の相談状況について

商工労働部長：別紙資料により説明

先週の相談件数は35件。経営については、津波により工場が流出したことによる今後の事業再開に関する相談があった。金融では、制度資金に関する融資について、労働では、原発事故により会社の売り上げが減少し、自分の給料も減少したため、将来を考慮して今退職した場合の失業給付の割合について相談があった。就職関係は、住宅退去を求められている求職者への住宅情報の提供についての相談が来ている。

(6) 放射線・除染講習会のお知らせ（2月分）について

生活環境部長：別紙資料により説明

一般県民を対象にした2月分の講習会で合計8回開催する。これまで7回開催し、649名が受講している。町内会等の地域単位で除染活動を行う際の基礎的な知

識を得ていただく講習会である。3月までに合計30回程度開催予定である。

松本副知事

国において、環境再生事務所や除染プラザも設置されているので、そちらも積極的に活用・利用してもらおうよう、この資料を修正して広報して欲しい。

知事

一昨日、環境省の環境再生事務所が設置され、除染プラザも設置されたが、大事なことは市町村や国と一体感を持って進めることである。国や県、市町村の情報をしっかりと共有すること。環境再生事務所や除染プラザは建物が別であるが、一体感を持って、県民が安心して相談できる体制を取って欲しい。

(7)「絆つながるふくしまの春」について

商工労働部長：別紙資料により説明

1月29日(日)に福島駅周辺で開催する予定であり、主旨としては被災者の方々と県北方部の方々の交流を図るイベントである。県北や南相馬はじめ被災された地区の伝統行事や震災以降の軌跡を展示するものである。昨年12月23日に郡山市でキャンドルナイトが開催されたが、これと同じ主旨で開催する。

松本副知事

このイベントは比較的大規模なイベントになるかと思うが、今後の展開も意識しながら、絆が繋がるようなイベントとして開催してほしい。

松本副知事

放射性物質汚染資材についてであるが、まず汚染源の特定についてだが、双葉砕石工業の状況を先週金曜日に現地に入り確認・分析しているところである。これ以外の砂利採取所等27箇所についても、本日から現地調査を実施する。

次に流通状況についてだが、双葉砕石工業からの流通経路については、生コン会社2社、建設会社17社について経産省、国交省、県とが一体となって流通状況を調査しているところである。特に農林・土木・学校関係の公共事業については、先行して調査し早く結論を得なければならないと思うので、関係部局は速やかな対応をお願いします。結果が分かり次第、速やかな報告をお願いします。

知事

今の松本副知事からの話は大事な話なので、迅速に調査を進めること。

5月26日に国に対し、県から基準を示していただきたいと申し入れたが、相当時間経過しており、私も何回も会議の中で要請してきたが、今後迅速に明示してほしい。

松本副知事

基準を示す際は、県や業界団体の意見も十分に聞いて示してほしい。

知事

連日苦勞様です。先週は、猪瀬副知事から福島県に対する協力体制の話をいただき、アメリカのルース大使からは、原子力事故へのアメリカからの協力の申し出があり、常陸宮ご夫妻には仮設住宅をお見舞いいただき、消防殉職者慰霊式を開催し、平野文科相には賠償や子ども達の食の安全の話をさせていただいたことなど、全国から支援協力が寄せられている。

県内を歩いてみると、元気が出てきており、皆さんの努力の結果と思っている。

例年になく寒く、雪に慣れていない方もおられるようだが、健康に十分注意して頑張っていたきたい。

※ 次回は、来週1月30日（月）午前10時30分から開催する。